



## 不思議としるし、新天新地 出エジプト記

出エジプト記. 2014.3.6

1:-18: 「不思議としるし・ハシヤ」  
主はモーセを遣ひて、奴隷の家から民を連れ出さしむ。

19:-40: 「新天新地・ア・メ」  
主は律法を与へて、荒野の民とともに住んぬ。

モーセvsパロ  
6:10-11: 敵が死、民に命  
15:22-18: 水、PT  
①

1:-6:9 モーセの選び  
12:-15:21 過越、海渡  
⑤  
H6051 密.  
救いを受ける王.

預言  
24:-31: 幕屋、祭司の衣  
19:-23: 律法、シナイ山  
32:-34: 律法、金犢子  
35:-40: 幕屋、祭司の衣  
21:21 地の天を造る  
Acts 7:44 Rev. 21  
④

21:21 地の天を造る  
Acts 7:38 天の幕のてがら  
Rev. 21  
③

預言者の祭司.

出エジプト記の全体を把握しましょう。1章から18章まで、いわゆるストーリー的なところ、エジプトから連れ出されたということと、19章からの後半、命令が与えられて、幕屋を作る作り方、祭司の洋服などの話に分かれています。

出エジプト記. 2014.3.6

1:-18: 「不思議としるし・ハシヤ」  
主はモーセを遣ひて、奴隷の家から民を連れ出さしむ。

19:-40: 「新天新地・ア・メ」  
主は律法を与へて、荒野の民とともに住んぬ。

モーセvsパロ  
6:10-11: 敵が死、民に命  
15:22-18: 水、PT  
①

1:-6:9 モーセの選び  
12:-15:21 過越、海渡  
⑤  
H6051 密.  
救いを受ける王.

預言  
24:-31: 幕屋、祭司の衣  
19:-23: 律法、シナイ山  
32:-34: 律法、金犢子  
35:-40: 幕屋、祭司の衣  
21:21 地の天を造る  
Acts 7:44 Rev. 21  
④

21:21 地の天を造る  
Acts 7:38 天の幕のてがら  
Rev. 21  
③

預言者の祭司.

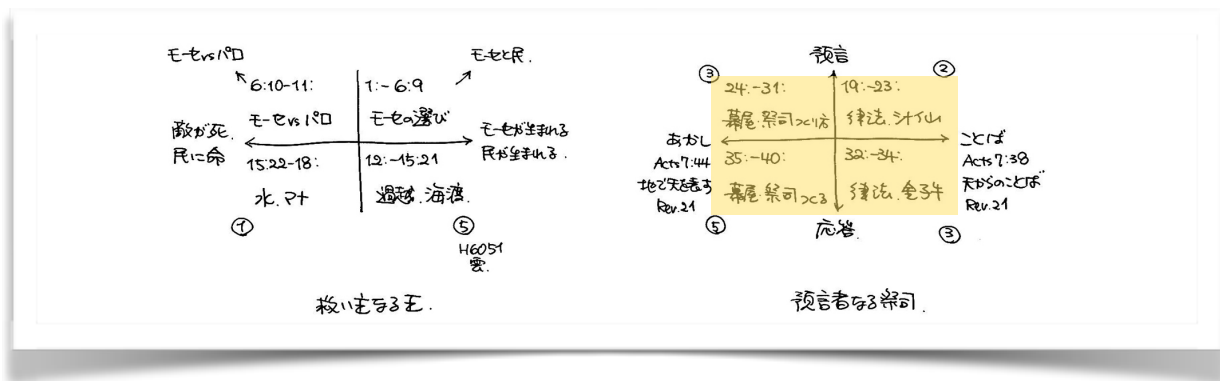
前半の1章から18章まで、15章に歌などがあつたりしますが、そこを4つに分解できます。1章から6章のところ、モーセが生まれて、ミデアンに行つたりしますが、モーセが民を連れ出すという命令を与えられて、モーセが選ばれたところです。

次にそのモーセがパロと対決するという、ここは、十の災いというふうに言われたりする災いの戦いです。モーセが民を連れて礼拝に行くところから始まります。

初子が裁かれて、過越の事件、出来事と海が分かれて連れ出されるというのが、三番目の段落。

連れ出されたところで水が与えられる話が2回ありますけれど、その間に、マナの話と安息日を守りなさいというような命令があります。最後に戦いもあります。アマレクと戦って、ミデアンから始まってミデアンで終わっています。モーセの話と民がどうなっているかということが並行しているところです。

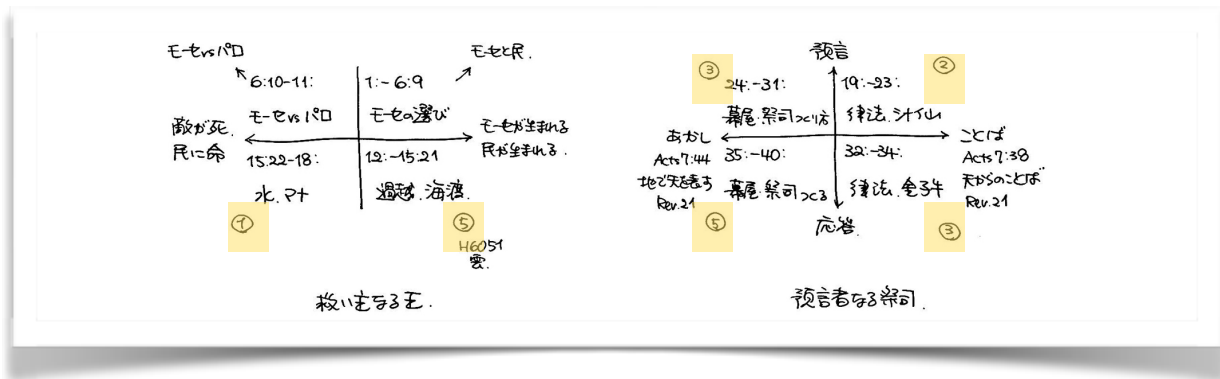
(右上の段落では) モーセが選ばれて生み出された、(右)下の段落では、過越で新しい民が連れ出されて、新しい民が生まれたという共通点です。そして、こちら(左上の段落)では、モーセとパロの対決で、敵が死にました。民に命が与えられました。奴隷にしていたものが裁かれて自由が、安息が与えられた。モーセとパロの対決、モーセと民の関係というように、この最初の1章から18章までの段落が見えると思います。



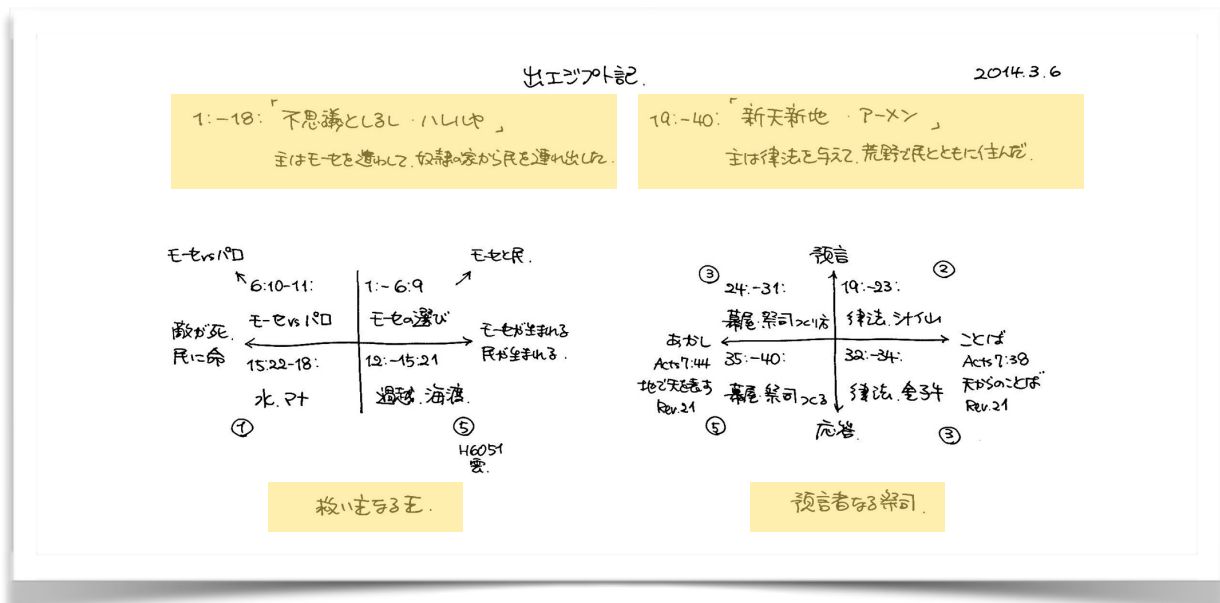
19章からは、シナイ山に登って律法が与えられる。そして、幕屋の作り方、祭司の洋服などが、このようにしなさいと教えられました。そして、その命令をもらっている間に、残念ながら金の子牛を作ってしまった。そして、もう一度律法をモーセのとりなしによって与えられて、実際に幕屋を作っていくということが35章からのところです。山に登って律法、十戒が与えられる。幕屋の作り方と、実際に幕屋を作りましたということ。

19章からと24章からは、こうしなさいという預言と、それに対して破ってしまった金の子牛の話と、幕屋を実際に作りましたという応答。前半が預言、後半が応答という形だと思います。

ことばが与えられた19章と32章。そして、あかし。天からの言葉を与えられたので、その天からのことばを行うことによって、地で天を表すあかしの幕屋と言われたりします。使徒行伝7章38節にステパノのあかしのところで言われている、みことばを与えられてあかしの幕屋の話というのがありました。



オレンジ色の1,5,3,5,2,3と書いてあるのは、栄光の雲が現れて、神様の栄光が現れてと救いに導かれているところですが、過越と海を渡るところ、雲と光で連れ出したところ。このあたりからは栄光がたくさん出てきますけれど、最後も栄光に満ちあふれているところで終わります。

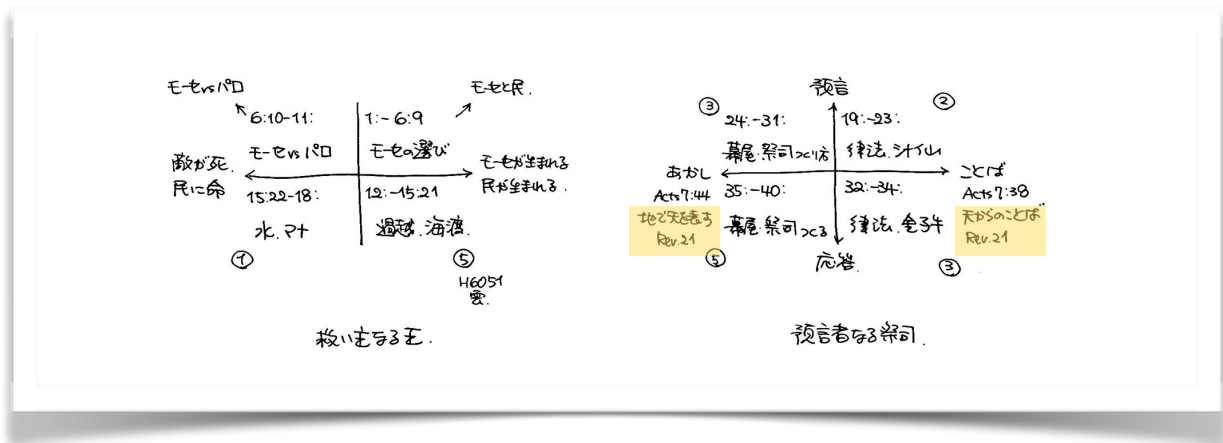


前半と後半。前半は、主はモーセを遣わして、奴隷の家から民を連れ出す。不思議としるしで連れ出す。敵を裁いて民を連れ出す。後半は、その連れ出した民にみことばを与えて、民と共に住むというのが後半です。

不思議としるしを行った。これは、ほかの書物や詩篇などで言われますけれど、不思議としるしを行った、ハレルヤ。ハレルヤというのは、敵が裁かれて民が救われたところ。特に、この15章のモーセの歌を見れば、ハレルヤの詩篇の最初というようなものです。そして最後に主は、すべてを統べ治める、主は王であるというのが15章の終わりのところですから、ハレルヤ、すべてをご支配くださる王が勝利を取ったというのが前半。

後半は、王様が連れ出してくださった新しい天、新しい地。ここで、新しい天、新しい地を幕屋という形で作って、民と共に住んでくださるということが幕屋によって表されているということで、後半は新天新地でアーメン。恵みとまことが満ちているという意味でアーメンという応答のほうです。ハレルヤの神様に導かれて、アーメンの民が形

成されたというようなことが言えると思います。前半が救い主なる王。後半は預言者である祭司。アロンはモーセの預言者でした。ことばなる祭司。ことばを語って導き清める祭司というようなことだと思いますけれど。



この1章から40章までの全体の概略を把握すると、最後の黙示録のところにもたくさん出てきます。カエルや災いのところを思い出すものもありますし、水が追ってくるところや、へびの話、飲み込む話もありますし、幕屋の話も出てきます。最後のハレルヤとアーメンの黙示録で成就するところの最初の出来事が「出エジプト記」ということだと思います。